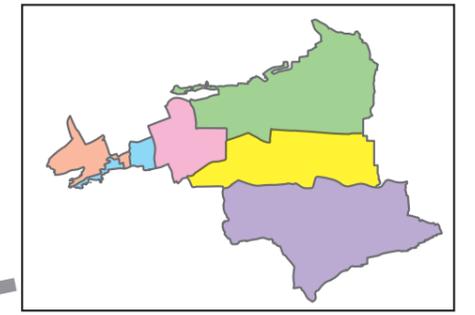


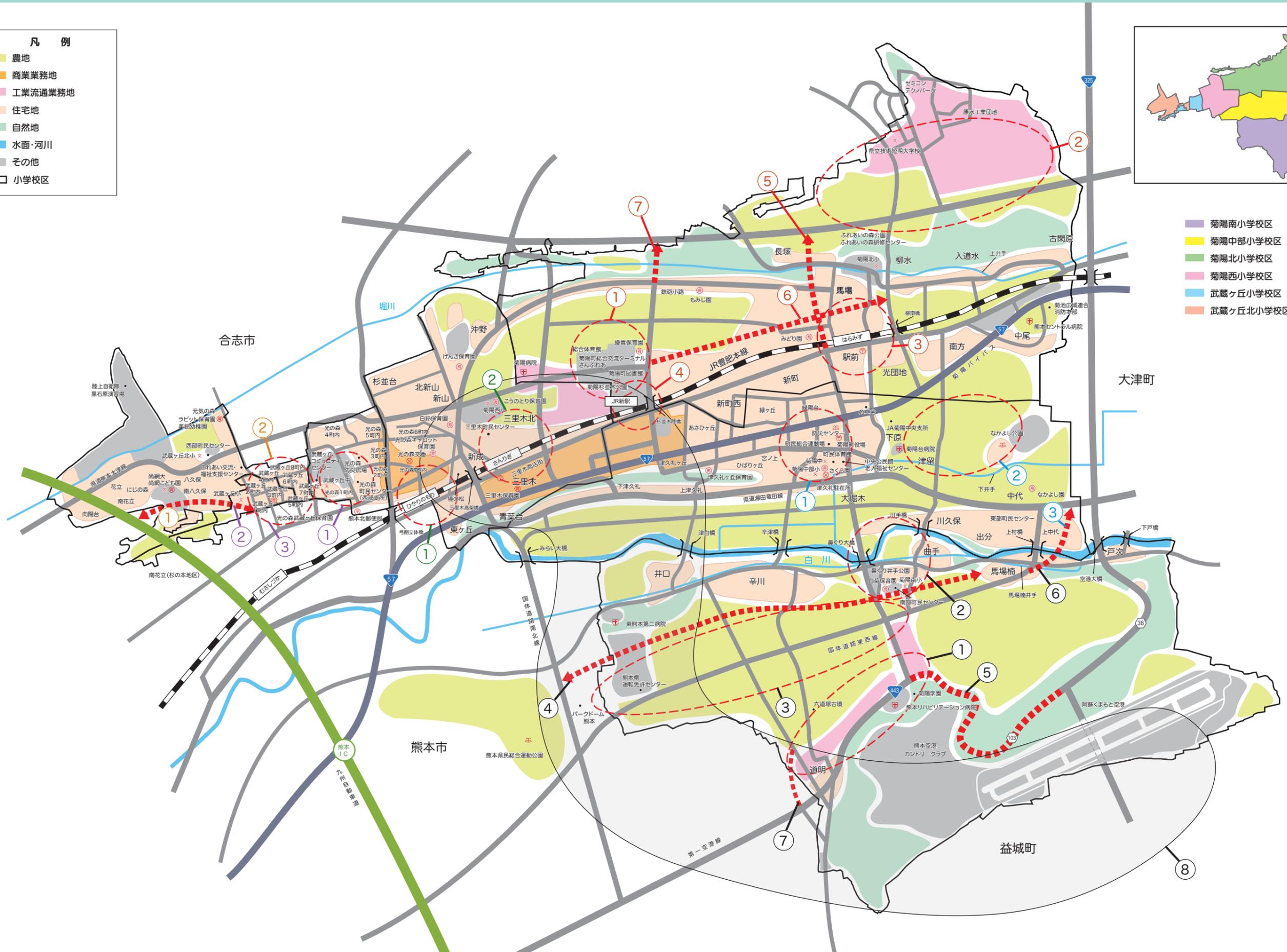
■ 校区別計画 ■

全体図

- 凡例**
- 農地
 - 商業業務地
 - 工業流通業務地
 - 住宅地
 - 自然地
 - 水面・河川
 - その他
 - 小学校区

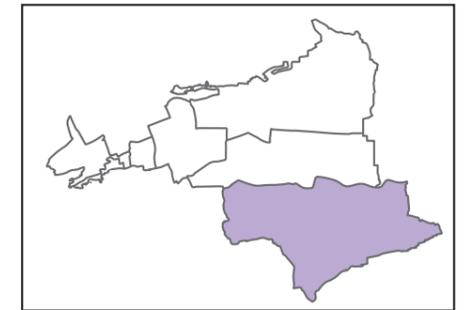


- 菊陽南小学校区
- 菊陽中部小学校区
- 菊陽北小学校区
- 菊陽西小学校区
- 武蔵ヶ丘小学校区
- 武蔵ヶ丘北小学校区

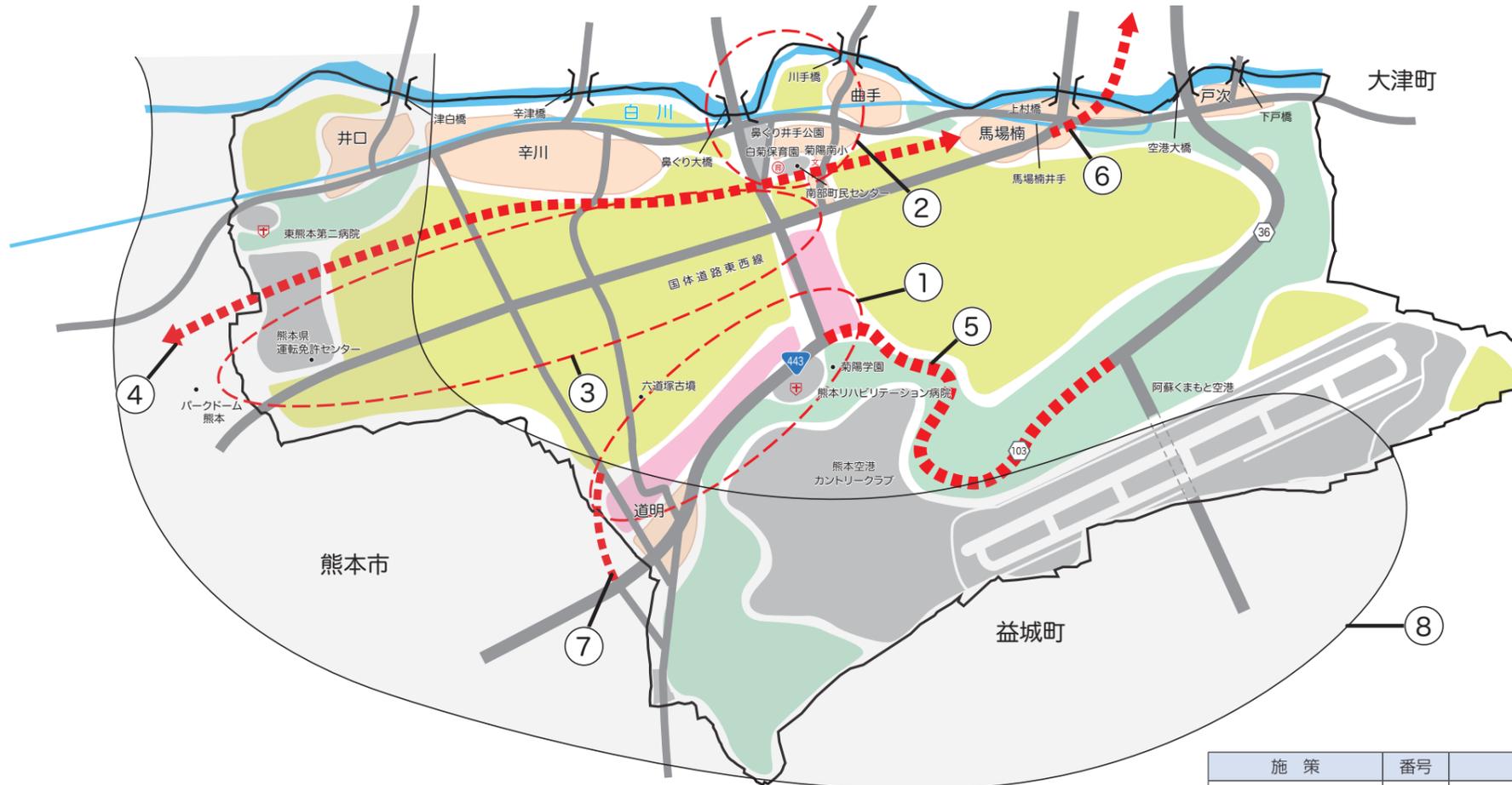


美しい自然や歴史文化遺産など多くの資産に恵まれ、空港を活かした企業の集積も進む、潜在力の高い集落地エリア

目指す姿 ▶ にぎわいの創出による定住人口の増加と農業生産基盤の充実



◆校区に含まれる行政区
井口、辛川、道明、曲手、馬場楠、戸次



凡例	
農地	農業用地
商業業務地	商業・業務用地
工業流通業務地	工業・流通・業務用地
住宅地	住宅用地
自然地	自然環境用地
水面・河川	水面・河川
その他	その他
小学校区	小学校区

◆地区の概況と課題◆

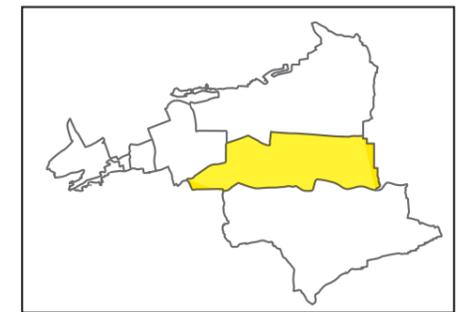
- ・町南部に位置し、面積は約1,336haで町土面積の約36%を占めています。
- ・全域が市街化調整区域に区分され、中央部には優良な農地が広がっています。
- ・白川沿いには、集落地が形成されています。
- ・歴史的な農業土木遺産である「馬場楠井手の鼻ぐり（鼻ぐり井手）」があります。
- ・南部丘陵地には、阿蘇くまもと空港やゴルフ場が立地しています。施設周辺の斜面地には、地域の貴重な森林が残っており、良好な景観を維持しています。
- ・病院や福祉施設などが多く立地しています。
- ・国道443号沿線を中心に新たな企業立地が進んでいます。
- ・西部には、県運転免許センターが立地しています。
- ・パークドーム熊本、陸上競技場などの施設を有する、県民総合運動公園が地区の西側に隣接しています。
- ▼高齢化が進んでおり、定住人口の増加により地区の活力を維持していくことが課題です。
- ▼交通量が増えており、通勤・通学や住民生活の安全を確保する道路整備、道路環境の改善が課題です。
- ▼白川や井手（農業用水路）を有しており、災害への備えが重要です。

施策	番号	概要
定住人口の増加	—	制度を活用した土地利用の誘導を図り、定住を促進します。
農地集積・集約化	—	農地の集積・集約化を進めます。
企業誘致の推進	①	企業の集積が進む国道443号沿線などへの企業誘致を進めます。食品・農業関係企業等の誘致により特産品の開発や雇用の場の開拓に取り組みます。
鼻ぐり井手などを活用した地域の活性化	②	町内に残る貴重な文化財などを保護し、活用することで、地域の活性化を進めます。
土地利用の検討	③	町道曲手小山線（国道道路東西線）沿線について、産業振興に資する土地利用を検討します。
道路整備及び道路環境の改善	④	東西に走る新たな道路（県道瀬田熊本線のバイパス）の整備について検討します。
	⑤	町道菊陽空港線の延伸効果を最大化し、阿蘇くまもと空港とセミコンテックパークのアクセスを強化するため、県道熊本空港線の整備を県に要望します。
	⑥	国道443号の整備について、県に要望します。
	⑦	県道辛川鹿本線の整備について、県に要望します。
白水地区県営かんがい事業	—	白水地区の県営かんがい事業の進捗を図ります。
白川等の治水（防災対策）	—	国や県とも連携し、白川等の治水（防災対策）に取り組みます。
（仮）空港アクセス鉄道と連携した地域の活性化	⑧	（仮）空港アクセス鉄道整備の動きと連携し、新駅（中間駅）周辺の振興など地域の活性化に取り組みます。
野球場の誘致	—	新球場の誘致に取り組みます。
地区の課題解決に向けた仕組みづくり	—	防災、福祉、子育て、介護など地域で支え合う人材の確保に取り組みます。町民センター等を活用したコミュニティ活動の支援や、地区が抱える課題解決を話し合える仕組みづくりについて検討します。

*網掛け部分は町のみでの実施はできない事業です。関係機関との調整を図り、事業の推進に取り組みます。

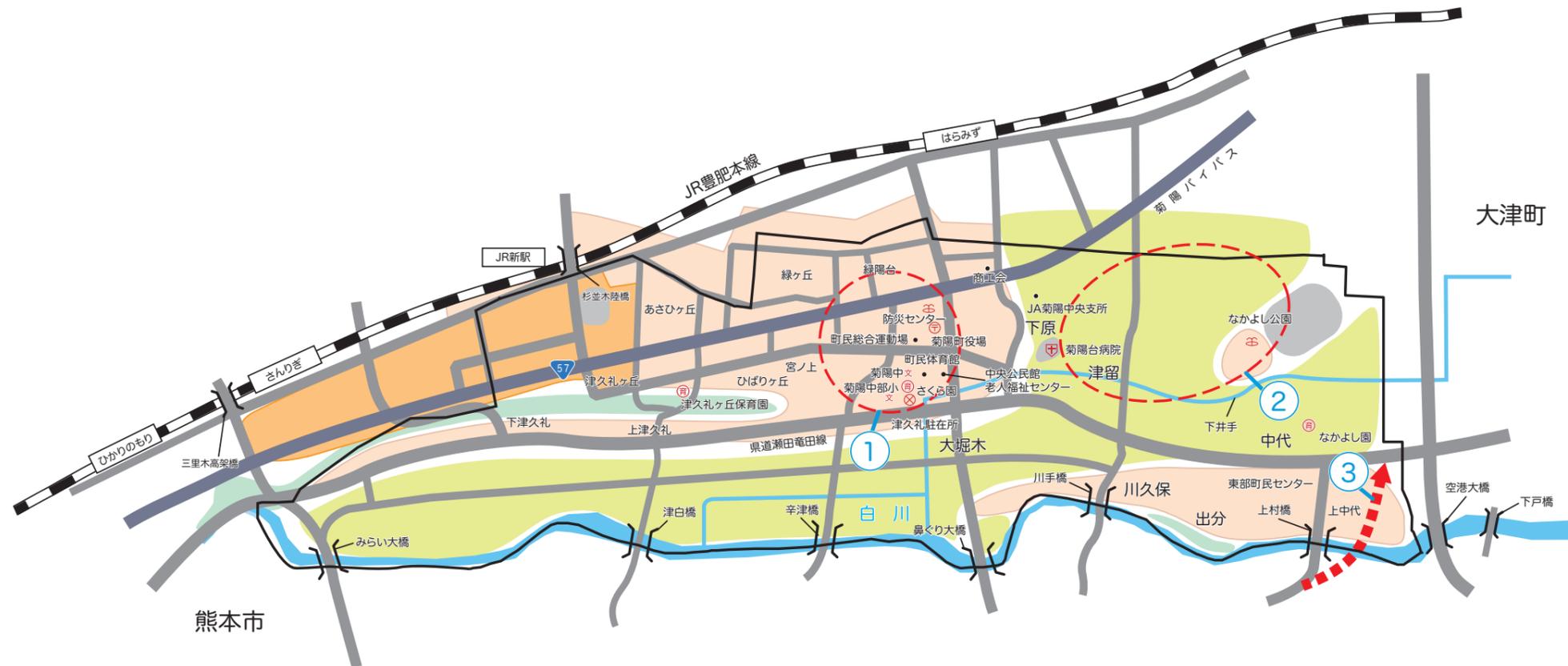
公共施設が集中して立地し、豊かな自然や農業、良好な住宅街、新たな商業ゾーンなど多様な顔を持つエリア

目指す姿 ▶ バランスのとれた農商工の発展と行政の中心拠点としての機能強化



◆校区に含まれる行政区
上中代、出分、中代、川久保、津留、大堀木、下原、宮ノ上、ひばりヶ丘、あさひヶ丘、津久礼ヶ丘、上津久礼、下津久礼、緑ヶ丘、緑陽台

凡例	
	農地
	商業業務地
	工業流通業務地
	住宅地
	自然地
	水面・河川
	その他
	小学校区



◆地区の概況と課題◆

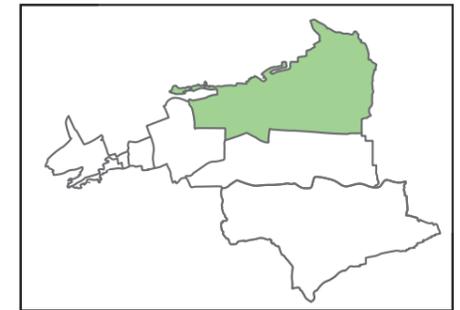
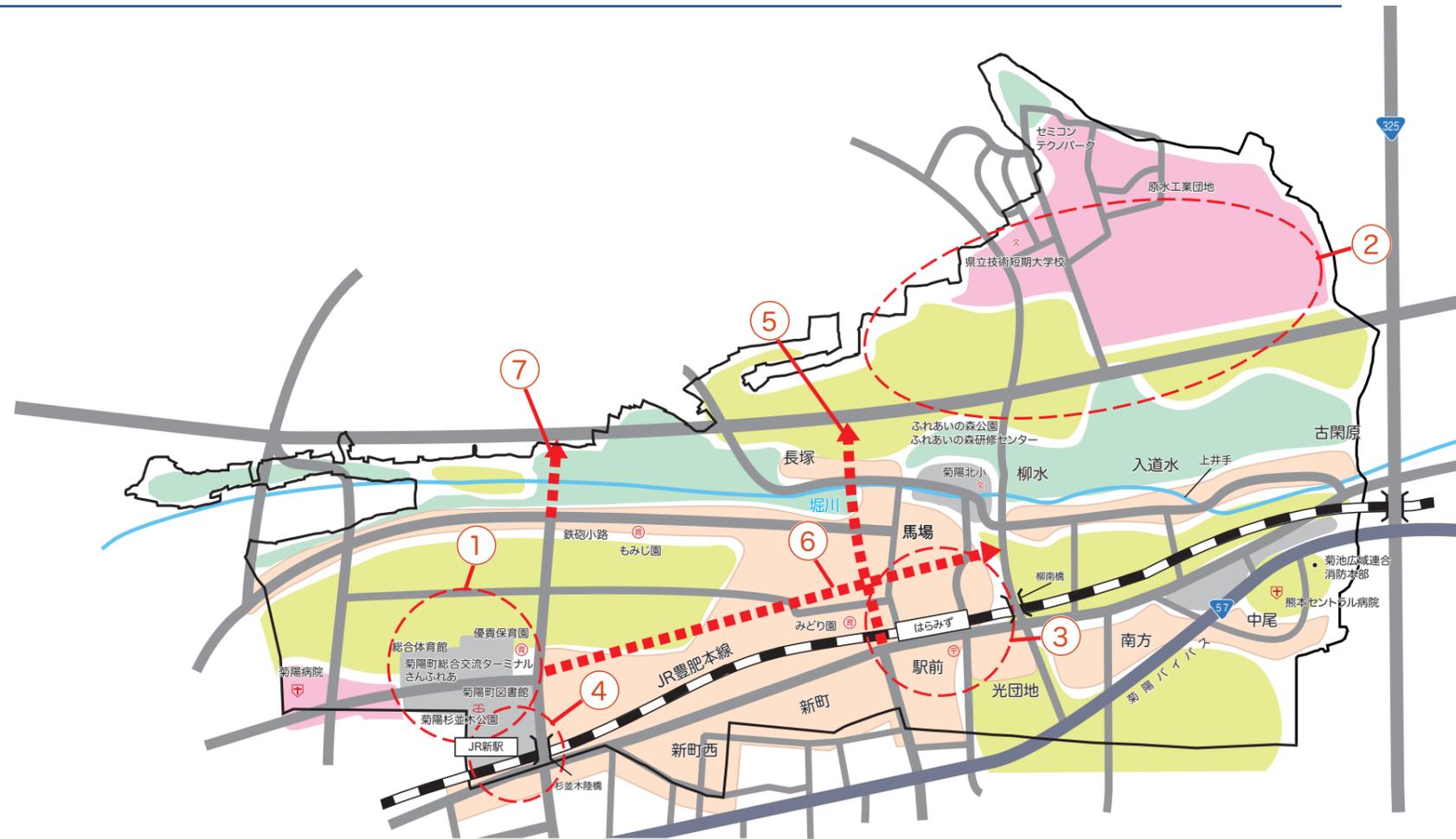
- ・町中央部に位置し、面積は約692haで町土面積の約18%を占めています。
- ・南縁部には東西方向に白川が流れています。
- ・東西方向に国道57号、南北方向に町道菊陽空港線が整備され、北縁部には東西方向にJR豊肥本線が走っています。
- ・南部や東部には農地が広がり、周辺部に集落地が形成されています。
- ・市街化区域では、土地区画整理事業の実施などにより良好な住宅地が形成されています。
- ・西部の国道57号沿線には、新たな商業ゾーンが形成されています。
- ・役場、中央公民館、町民総合運動場、町民体育館など、行政、文化、レクリエーションの拠点となる施設が多く立地し、本町の行政機能の中核を担う地区です。
- ・町の福祉拠点である老人福祉センター、福祉支援センター内には、町社会福祉協議会があります。
- ・JA菊陽中央支所や町商工会などが立地しています。
- ▼交通量が増えており、通勤・通学や住民生活の安全を確保する道路整備、道路環境の改善が課題です。
- ▼住宅地では、入居から一定の年数が経過し、世代交代が進みつつあります。年齢構成の変化に伴い、福祉や公共交通の需要が増えています。
- ▼行政施設の集積や農・商・工のバランスなど、地区のポテンシャルを活かしたまちづくりを進めることが課題です。
- ▼商業施設等の立地により賑わいが増す一方で、防犯対策など安全・安心を確保することが課題です。
- ▼白川や井手（農業用水路）を有しており、災害への備えが重要です。

施策	番号	概要
災害対応力の強化	①	災害対応の拠点となる防災センターを整備するとともに、周辺エリアの災害対応力を強化します。
下水道の長寿命化	—	下水道ストックマネジメント計画に基づき、下水道施設の老朽化対策を進めます。
都市公園の整備	—	区画整理地内の公園の整備を進めます。
沿道型商業施設の誘導	—	国道57号沿いに立地が進む商業施設の集積を図り、用途地域の変更を検討します。
農地集積・集約化	—	農地の集積・集約化を進めます。
久保田台地の開発	②	産業立地上の優位性を活かし、あらゆる業種の誘致を含めた産業団地として、開発に係る構想の策定に取り組みます。
道路整備及び道路環境の改善	—	交通渋滞緩和、道路改良・狭い道路解消、交通安全施設の整備を計画的に進めます。
	—	町道菊陽空港線の延伸効果を最大化し、阿蘇くまもと空港とセミコンテクノパークのアクセスを強化するため、県道熊本空港線の整備を県に要望します。
	③	国道443号の整備について、県に要望します。
白川等の治水（防災対策）	—	国や県とも連携し、白川等の治水（防災対策）に取り組みます。
安全・安心の確保	—	駐在所の機能強化について、県警に要望します。
地区の課題解決に向けた仕組みづくり	—	防災、福祉、子育て、介護など地域で支え合う人材の確保に取り組みます。町民センター等を活用したコミュニティ活動の支援や、地区が抱える課題解決を話し合える仕組みづくりについて検討します。

※網掛け部分は町のみで実施できない事業です。関係機関との調整を図り、事業の推進に取り組みます。

県内有数の産業拠点と田園風景とが調和し、歴史的なたたずまいを残しつつも、更なる拠点性の向上が期待されるエリア

目指す姿 地域経済をけん引する産業拠点の強化と職住近接の豊かな暮らし創出



◆校区に含まれる行政区
古閑原、入道水、柳水、馬場、鉄砲小路、長塚、新町、新町西、南方、光団地、中尾、駅前

凡 例	
■	農地
■	商業業務地
■	工業流通業務地
■	住宅地
■	自然地
■	水面・河川
■	その他
□	小学校区

◆地区の概況と課題◆

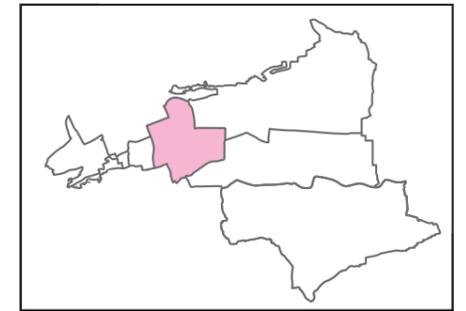
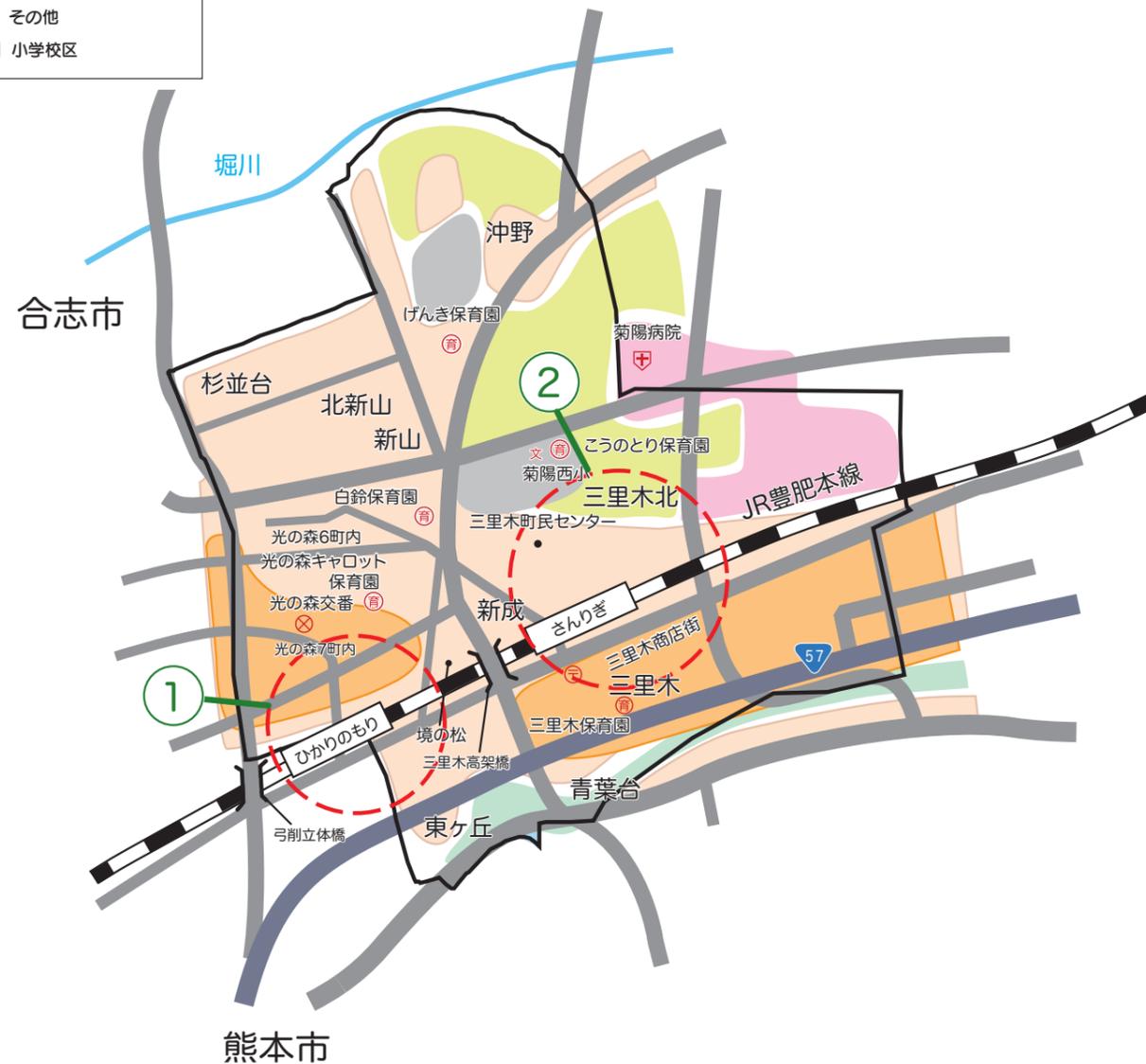
- ・町北部に位置し、面積は約1,128haで、町土面積の約30%を占めています。
- ・大部分が市街化調整区域に区分されており、優良な農地と集落地が形成されています。
- ・北部には、県内でも有数の工業団地としてセミコンテクノパーク及び原水工業団地が整備されています。
- ・南部を東西方向にJR豊肥本線が走っており、原水駅があります。
- ・JRに並行して、県道熊本菊陽線（旧国道57号）が通っています。
- ・本町の歴史を特徴づける豊後街道菊陽杉並木、鉄砲小路地区の生垣による街並みが残されています。
- ・農業用水路として江戸時代に整備された上井手（堀川）が流れており、多くの農地に水を供給しています。
- ・西部には、菊陽杉並木公園、総合交流ターミナル「さんふれあ」があります。
- ・菊陽杉並木公園の拡張整備（総合体育館の整備等）により、防災機能の強化が進んでいます。
- ・セミコンテクノパーク内には県立技術短期大学が立地しています。
- ・東部には、菊池広域連合消防本部（南消防署）があります。
- ▼交通量が増えており、通勤・通学や住民生活の安全を確保する道路整備、道路環境の改善が課題です。
- ▼宅地開発により人口が増加しており、保育所・小学校・学童保育などの不足が懸念されます。
- ▼菊陽杉並木公園の拡張整備後における、ソフト面も含めた施設の有効活用が課題です。
- ▼道路整備や工業団地の拡張に併せ、職住近接やJR駅を中心とした沿線の活用がテーマです。

施策	番号	概要
菊陽杉並木公園の防災機能の強化・活用	①	総合体育館の整備など菊陽杉並木公園の防災機能強化を進め、平時・災害時両方の活用を図ります。
工業団地の拡張	②	(仮称) 第二原水工業団地の整備を進めます。
農地集積・集約化	—	農地の集積・集約化を進めます。
原水駅周辺の市街地形成	③	原水駅周辺の市街地形成について検討します。
JR新駅設置と周辺開発	④	町図書館付近に新駅を設置するとともに、周辺地域の開発を進めます。
道路整備及び道路環境の改善	⑤	町道菊陽空港線の延伸
	⑥	町道杉並木公園線の延伸
	⑦	町道下原堀川線の延伸
	—	中九州横断道路へのアクセス強化
中九州横断道路周辺エリアの活性化	—	中九州横断道路の整備による原水駅周辺の利便性向上など、地域の活性化に取り組みます。
北部町民センター(仮称)整備構想	—	地域住民の交流をさらに深めるため、軽運動室やステージを備えた施設整備の構想を行います。
大学校との交流・連携	—	県立技術短期大学校との交流・連携を進めます。
地区の課題解決に向けた仕組みづくり	—	防災、福祉、子育て、介護など地域で支え合う人材の確保に取り組みます。町民センター等を活用したコミュニティ活動の支援や、地区が抱える課題解決を話し合える仕組みづくりについて検討します。

※網掛け部分は町のみでの権限では実施できない事業です。関係機関との調整を図り、事業の推進に取り組みます。

商業施設が充実し、公共交通の拠点を擁する利便性の高い居住エリア

目指す姿 暮らしとにぎわいが共存するコンパクトで均衡の取れた市街地の形成



◆校区に含まれる行政区
三里木、三里木北、新山、境の松、新成、北新山、杉並台、青葉台、東ヶ丘、沖野、光の森6町内、光の森7町内

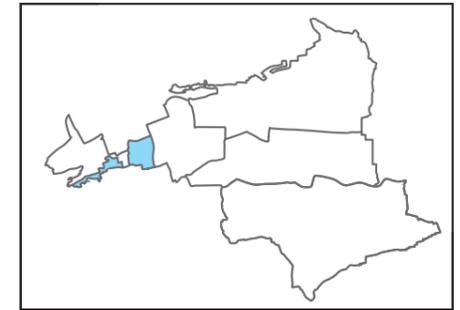
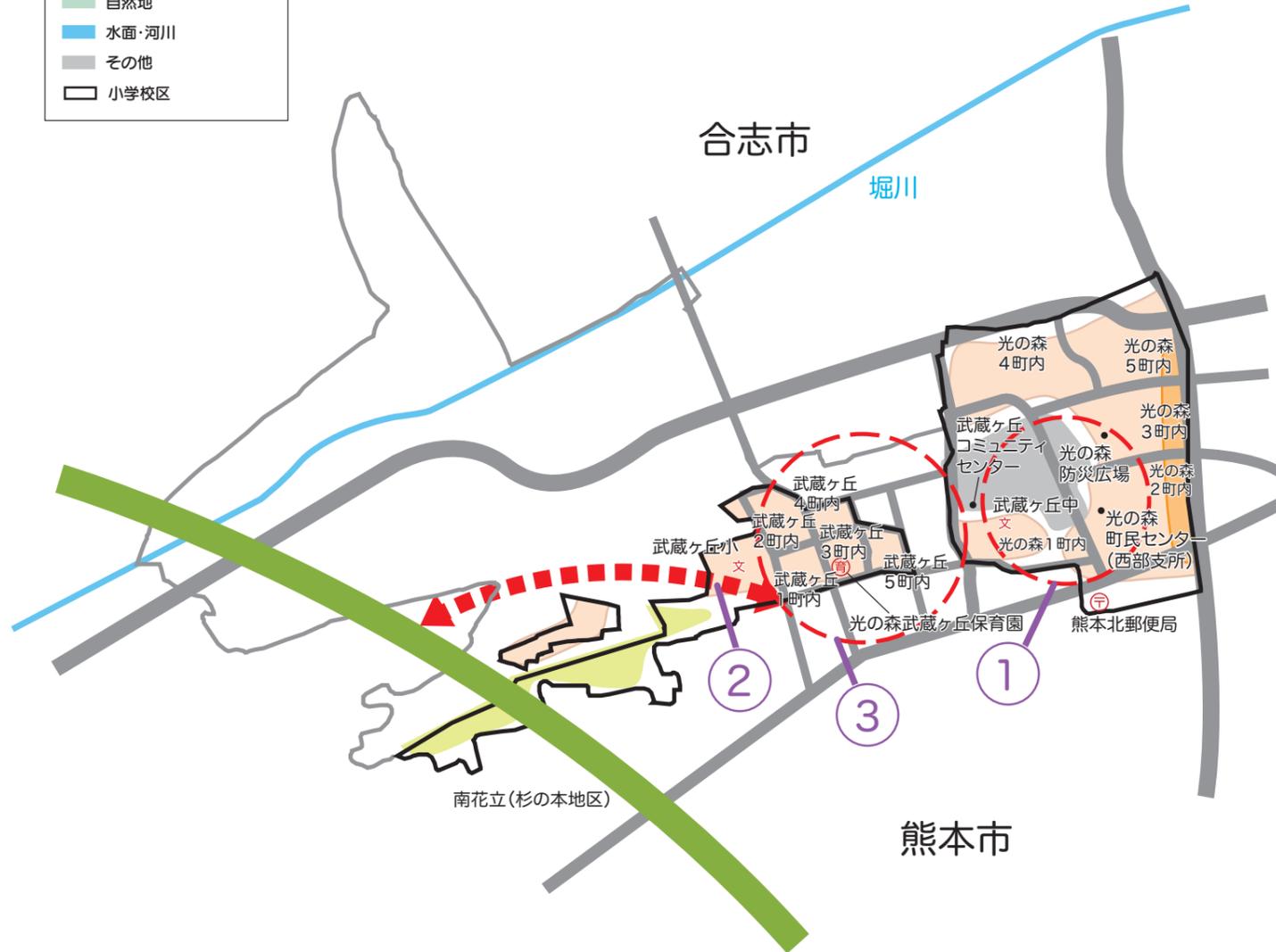
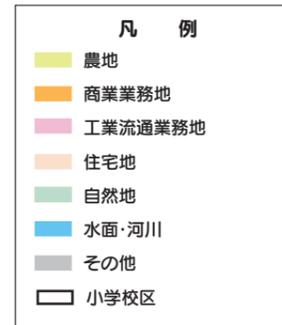
◆地区の概況と課題◆

- ・町中西部に位置し、面積は約325haで町土面積の約9%を占めています。
- ・南部が熊本市と隣接し、一体的な市街化区域に区分されています。市街化区域では、土地区画整理事業の実施などにより良好な市街地が形成されています。
- ・西部にある「光の森」地区は、熊本都市圏北東部を代表する住宅街に成長し、多くの商業施設も立地しています。
- ・大規模商業施設の増床や再整備などにより、商業エリアには新たな活気が生まれています。
- ・北部には農地が広がっています。
- ・東西方向に国道57号や県道熊本菊陽線、南北方向に県道辛川鹿本線などが整備されています。
- ・JR豊肥本線の光の森駅や三里木駅、九州産交バス光の森営業所といった公共交通の拠点があります。
- ▼交通量が増えており、通勤・通学や住民生活の安全を確保する道路整備、道路環境の改善が課題です。
- ▼住宅地では、入居から一定の年数が経過し、世代交代が進みつつあります。年齢構成の変化に伴い、福祉や公共交通の需要が増えています。
- ▼今後、住宅の更新等が進むことが予想されるため、入居時期の異なる住民の交流を促進することにより、地区の新たな賑わいにつなげていくことが課題です。
- ▼JR駅を拠点とした地域の活性化がテーマです。

施策	番号	概要
JR 光の森駅の利便性向上	①	光の森駅から商業施設などへの連絡を強化し、駅周辺の利便性向上と交通安全確保に取り組めます。
沿道型商業施設の誘導	—	国道57号沿いに立地が進む商業施設の集積を図り、用途地域の変更を検討します。
JR 三里木駅周辺のにぎわい拠点の検討	②	三里木駅周辺に、ホテル・店舗などのにぎわい拠点の整備を検討します。
(仮) 空港アクセス鉄道と連携した地域の活性化	—	(仮) 空港アクセス鉄道整備の動きと連携し、地域の活性化に取り組めます。JR 豊肥本線北側の新たな土地開発の可能性についても調査・検討します。
中九州横断道路周辺エリアの活性化	—	中九州横断道路の整備による地域の活性化に取り組めます。
道路整備及び道路環境の改善	—	交通渋滞緩和、歩行者の安全確保のための道路改良・狭あい道路解消、交通安全施設の整備を計画的に進めます。
公共交通の拠点、利便性の向上	—	県道住吉熊本線の交通渋滞対策について、県に要望します。
公共交通の拠点、利便性の向上	—	光の森発着の高速バスの運行を事業者に働きかけるなど、交通の利便性を向上させます。
地区の課題解決に向けた仕組みづくり	—	防災、福祉、子育て、介護など地域で支え合う人材の確保に取り組めます。町民センター等を活用したコミュニティ活動の支援や、地区が抱える課題解決を話し合える仕組みづくりについて検討します。

※網掛け部分は町のみで実施できない事業です。関係機関との調整を図り、事業の推進に取り組めます。

目指す姿 世代間の交流が進む 安全・安心で快適な生活拠点の形成



◆校区に含まれる行政区
 光の森1町内、光の森2町内、光の森3町内、
 光の森4町内、光の森5町内、
 南花立(杉の本地区)、
 武蔵ヶ丘1町内、武蔵ヶ丘2町内、
 武蔵ヶ丘3町内、武蔵ヶ丘4町内、
 武蔵ヶ丘5町内

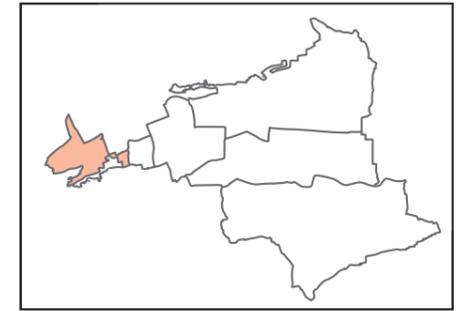
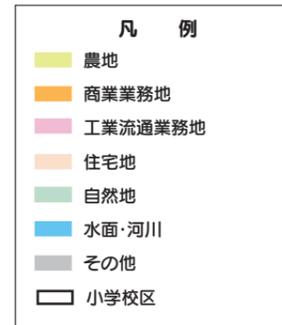
◆地区の概況と課題◆

- ・町西部に位置し、面積は約85haで町土面積の約2%を占めています。
- ・熊本市、合志市と連なる市街化区域が住居系の用途地域に指定されており、「光の森」や「県営武蔵ヶ丘団地」など、良好な住宅団地を形成しています。
- ・西部は、農業振興地域の農用地区域に指定されています。
- ・光の森町民センター(キャロピア)、光の森防災広場があり、町西部地域における行政・防災の拠点となっています。
- ・熊本北郵便局が立地しています。
- ▼交通量が増えており、通勤・通学や住民生活の安全を確保する道路整備、道路環境の改善が課題です。
- ▼住宅地では、入居から一定の年数が経過し、世代交代が進みつつあります。年齢構成の変化に伴い、福祉や公共交通の需要が増しています。
- ▼高齢化が進む地域では、課題を抱える人々への支援体制を強化していくことが重要となっています。

施策	番号	概要
光の森多目的広場の利活用	①	光の森防災広場の活用により、地域防災力の向上に取り組みます。また、残りの用地の利活用を図ります。
道路整備及び道路環境の改善	—	交通渋滞緩和、歩行者の安全確保のため、道路改良・狭あい道路解消、交通安全施設の整備を計画的に進めます。
	②	西部地区新設道路の構想、計画の策定に取り組みます。検討にあたっては、熊本市など関係機関との調整を図ります。
武蔵ヶ丘地区再開発	③	西部地区新設道路の構想、計画の策定に取り組みます。検討にあたっては、熊本市など関係機関との調整を図ります。
地区の課題解決に向けた仕組みづくり	—	住宅団地の開発から40年以上が経過する武蔵ヶ丘地区において、あらゆる世代が快適に暮らせる街並みの再配置や医療・介護等の機能の充実、商業施設、文化施設、健康産業の整備など、新たな地区の再開発に取り組みます。
地区の課題解決に向けた仕組みづくり	—	防災、福祉、子育て、介護など地域で支え合う人材の確保に取り組みます。町民センター等を活用したコミュニティ活動の支援や、地区が抱える課題解決を話し合える仕組みづくりについて検討します。

※網掛け部分は町のみの権限では実施できない事業です。関係機関との調整を図り、事業の推進に取り組みます。

目指す姿 ▶ 世代間の交流が進む 安全・安心で快適な生活拠点の形成



◆校区に含まれる行政区
 武蔵ヶ丘6町内、武蔵ヶ丘7町内、
 武蔵ヶ丘8町内、八久保、花立、南花立、向陽台、
 南八久保(杉の本地区を除く)、にじの森

◆地区の概況と課題◆

- ・町西部に位置し、面積は約180haで町土面積の約5%を占めています。
- ・熊本市、合志市から連なる市街化区域が住居系の用途地域に指定されており、良好な住宅団地を形成しています。
- ・陸上自衛隊黒石原演習場や尚綱大学武蔵ヶ丘キャンパスが立地しています。
- ▼交通量が増えており、通勤・通学や住民生活の安全を確保する道路整備、道路環境の改善が課題です。
- ▼西部では、雨水対策が課題となっています。
- ▼住宅地では、入居から一定の年数が経過し、世代交代が進みつつあります。年齢構成の変化に伴い、福祉や公共交通の需要が増えています。
- ▼高齢化が進む地域では、課題を抱える人々への支援体制を強化していくことが重要となっています。

施策	番号	概要
計画的な雨水対策・下水道の老朽化対策	—	雨水対策として、花立地区・武蔵ヶ丘北地区の雨水排水施設の機能拡充に取り組みます。下水道ストックマネジメント計画に基づき、下水道施設の老朽化対策を進めます。
武蔵ヶ丘第二保育園跡地の利活用	—	武蔵ヶ丘第二保育園の跡地の利活用に取り組みます。
道路整備及び道路環境の改善	—	交通渋滞緩和、歩行者の安全確保のため、道路改良・狭あい道路解消、交通安全施設の整備を計画的に進めます。
	①	西部地区新設道路の構想、計画の策定に取り組みます。検討にあたっては熊本市など関係機関との調整を図ります。
	—	県道熊本大津線の交通渋滞対策・道路環境の改善について、県に要望します。
武蔵ヶ丘地区再開発	②	住宅団地の開発から40年以上が経過する武蔵ヶ丘地区において、あらゆる世代が快適に暮らせる街並みの再配置や医療・介護等の機能の充実、商業施設、文化施設、健康産業の整備など、新たな地区の再開発に取り組みます。
大学との交流・連携	—	尚綱大学及び尚綱大学短期大学部との交流・連携を進めます。
地区の課題解決に向けた仕組みづくり	—	防災、福祉、子育て、介護など地域で支え合う人材の確保に取り組みます。町民センター等を活用したコミュニティ活動の支援や、地区が抱える課題解決を話し合える仕組みづくりについて検討します。

※網掛け部分は町のみで実施できない事業です。関係機関との調整を図り、事業の推進に取り組みます。